



さくら市立氏家小学校 学校だより

9月号

# 氏小だより



大志ちゃん

令和7年9月12日発行

発行者 氏家小学校長

よく考える子 なかよくする子 体をきたえる子

すべての子どもが輝く学校

## ～学校が始まりました～ 夏休み中のご家庭の協力に感謝

37日間眠っていた学校に児童の声が響き、大きくなった子どもたちが元気に戻ってきました。今年は例年になく酷暑で、子どもたちの思い出づくりはもちろん、健康管理にも気をつかわれたことと思います。安全で楽しい夏休みを過ごすためのご家庭のご配慮に、あらためて感謝申し上げます。

過ごしやすくなるこれからの季節は、様々な行事が控えています。10月11日(土)に運動会が予定されており、1学期も残り1か月となりました。学期のまとめを行いながら、全職員で児童の学校生活の充実に努めていきたいと思ひます。夏の疲れや運動会の練習で体調を崩さないよう、お子さんの健康管理にご協力をお願いします。

## ～さくら市学校給食センターオープン～ 全小中学校の給食4000食！

9月1日(月)からさくら市学校給食センターで調理された給食をいただいています。運ばれてくる給食は、温かく、栄養満点で、味がよく、児童は毎日とても楽しみにしています。この施設では、衛生面に配慮したドライ方式を取り入れ、50名の調理員さんが1日に4000食の調理を行っているそうです。マスコットキャラクター「さくらこ」の名づけ親の一人は、本校3年生の藤田奏(ふじたかなで)さんです。キャラクターは食器にも描かれ、これから長くおいしい給食とともに思い出に残ることになるでしょう。



## ～親子環境緑化活動～

8月30日(土)は、第2回目の親子環境緑化活動を実施しました。大変暑い日でしたが、多くの親子が参加し、夏休み後で伸びた植込の刈り込みや、雑草取りに汗を流しました。おかげさまで、1時間後には見違えるようにきれいになりました。保護者のみなさま、お子さんのために学校の環境を整えてくださってありがとうございました。



## 活動渋りや登校渋りは「やりにくさ」のサイン ～家庭と学校ができること～

### ★学校生活にはエネルギーが必要！

夏休み明けは、始まりの喜びと不安が入り交じって、心のバランスがとりにくい時期です。また、家族と密接に過ごした日々が終わり、自分ひとりで頑張る学校生活に心細さが高まります。その不安から自分の心を守るために、子どもは行動を抑制します。それが、活動渋りや登校渋りとなって現れます。そんな時は、子どもの頑張るエネルギー（自己肯定感）が下がっているサインです。エネルギーを高めるために、大人は何をするべきでしょう。

### ★不安を否定しないで！「愛情」と「安心感」が栄養です！

元気のない子どもには、ついつい「がんばりましょう。」と声をかけたりしますね。でも、まずは不安を受け止めて「不安なんだね。」「わたしがついているよ。」と言ってあげてください。心に寄り添ってもらえたことで、子どもたちはとても安心します。そして「大丈夫だよ。見ているよ。」と抱きしめてください。人間も動物ですからスキンシップが愛着の始まりです。心に安全地帯ができ、少しの不安に対して次第に耐性ができます。

### ★やりにくさに寄り添って！

その上で、お子さんをよく観察してください。お子さんの「やりにくさ」はありませんか。

スキン  
シップ



ほ  
め  
る



#### やりにくさの例

- ①学習の遅れ ②対人関係が苦手 ③不器用 ④こだわり  
⑤表現力不足 ⑥経験不足 ⑦不安が強い ⑧気力が弱い

上記のようなことに対して、学校と家庭で連携してやりにくさを一つ一つ取り除いたり、スキルを養ったりしてあげられればと思います。大人が連携して自分のことを考えてくれる姿から、自分を大切な存在だと感じるができるでしょう。ゆっくりあせらずに成長してほしいと思います。

### ★やったことを褒めて！

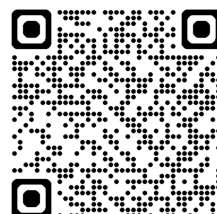
更に大切なことは、子どもたちがチャレンジしたことや頑張ったこと自体を心から褒めることだと思います。褒められると自信がわいて、エネルギーが満ちてきます。このエネルギーはwill power(ウィルパワー)と呼ばれ、「やってみよう」「やるぞ」と、前進するための源になります。よく褒められる子ほど物事にチャレンジして成功すると言われるのはこのためです。成功の前に、きっとそれ以上の失敗をしますが、たくさんのかたちを学びますし、それを乗り越える力もちゃんとついています。

校長室の窓から

じじじじ 焼がわいすは 帰路をへ

陽炎の中 小やうなぬ

児童の日々の活動をぜひご覧ください。下のQRコードから氏小のホームページにアクセスできます。保護者や地域の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。



かつてこんなに長く暑い夏があっただろうか。ニュースでは毎日のように「記録更新」が伝えられたが、気温計で測った数字以上に、体感では逃げ場のない暑さを実感した。私たちの地球は、今どれほど大変な状況にあるのかと、消費社会を数十年生きてきた者として、責任の一端を感じながら、環境の変化を憂う一人がここにもいる。

保護者のみなさんのご協力のおかげで、児童は全員元気に学校生活を再開し、授業では、今年屋内運動場に設置された、空調設備の恩恵を思う存分に享受している。しかし、休み時間になると、外は背中が焼かれるような暑さにも関わらず、元気に遊ぶ子どもたちの姿が見られ、「たくましいな。」と感心してしまう。午後になっても緩まない暑さの中、子どもたちの列が黙々と帰って行く姿が、陽炎の校庭の向こうに小さくなるのを見送りながら、「家まで無事にたどりついてね。」「明日も元気においで。」と、背中に呼びかけている。

「暑い夏も、寒い冬も、毎日通った学び舎」という、卒業式のフレーズが、ふと頭にリフレインして、子どもたちの姿が尊く見える。

